

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571900309		
法人名	医療法人 朋詠会		
事業所名	グループホーム コスモス苑	ユニット名	東
所在地	宮崎県東諸県郡綾町大字南俣1116番地		
自己評価作成日	平成24年11月26日	評価結果市町村受理日	平成25年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&jigyosyoCd=4571900309-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年1月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな恵まれた環境の中、開設して10年目を迎え、地域の人達と馴染みの関係を大切にし、入居者が楽しく、安心して生活できるようにサポートしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

創立10周年を迎え、利用者の高齢化が進み、100歳を越える利用者が2名もいるが、職員の献身的なケアに支えられ、明るく元気に過ごしている。テレビ番組に応募して、寄贈を受けた車いす対応の車両を有効活用して、1週間に1回程度、利用者と職員が一緒にドライブや買い物に出かけ楽しんでいる。また、昨年12月にノロウイルスの発生で大きな打撃を受けたが、母体医院をはじめ、全職員が組織を上げて全力で感染防止に取り組み、犠牲者を出すこともなく、短期に終息を図っている。管理者と職員は、利用者が安心して幸せに暮らせるよう、理念を共有し、笑顔のあるケアに日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	東	外部評価		
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で事業所理念をつくり、日々、理念に基づいたケアを実践しようと努めているが、完全に共有できているとはいえない。		職員全員で話し合い、作り上げたユニットごとの理念を共有し、笑顔のある心のこもったケアが実践されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町や地区の文化祭等には、利用者の作品を出品している。また、実際に文化祭会場まで足を運んでいる。		近くの保育園児との交流やボランティアの受け入れ等を行い、地域とのつながりができるよう努めている。また、地区の文化祭に利用者の作品を出品して、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行われており、議事録は閲覧できるが、内容の詳細については把握できていない。		運営推進会議では、運営状況の報告や話し合いが行われている。その中で、災害時に保存食の備蓄をどうするかなどの意見や提案があり、そこでの意見を運営に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方が協力的で、運営上の課題などの相談にのって頂いている。		役場の担当者とは、運営上の課題や相談が気軽にできる関係を築いている。また、運営推進会議に毎回出席し、介護保険料の見直し等の情報提供を多く行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について理解しているが、利用者の安全を考慮して、一部できていない部分もある。		職員は、研修や勉強会で、身体拘束の弊害を学び理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は、玄関や居室には施錠をしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を通して、職員全員が虐待のないケアに努めている。				

自己	外部	項目	自己評価	東	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とされるケースがあれば、活用できるよう、今後、勉強会や研修を受けサポートしていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得ができるよう、十分に説明をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は意見箱を設けていたが、利用がなかった為、今では直接対話の機会を設け、利用者や家族の意見を取り入れている。		年に数回、家族会を開き、利用者や家族の意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映させる取組を行っている。運営推進会議には、家族の代表が出席して、意見を述べる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行っており、意見交換している。		毎月、職員会議を開き、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。また、年に数回、法人の代表者が会議に出席して、職員の意見や提案を引き出す取組を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状態を来苑時に確認し、職場環境、条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるよう、配慮されている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、他の施設との交流はないので、今後計画していきたい。			

自己	外部	項 目	自己評価	東	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人より聞き取りをしたり、コミュニケーションを取りながら、関係づくりを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接などで、家族の希望や要望を聞き、対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際に、今までの生活歴や様々な情報を聞き、取り入れている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができることを見極め、本人の気分や状態に合わせて、一緒に実践できるよう働きかけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見や花火鑑賞など、利用者・家族・職員が楽しめる場を設け、共に支えていける関係が築けるよう、取り組んでいる。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間に関係なく、面会者が来られたら、自由に話ができるよう支援している。	家族の協力を得て、墓参りや買い物に出かけることがある。また、知人や友人が時間に関係なく、いつでも気軽に来訪して、ゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でトラブルがあった場合、席の配置を工夫して、親しい関係のある利用者同士で過ごして頂いている。			

自己	外部	項 目	自己評価	東	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方については、フォローはしていない。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人の意向・要望を取り入れて、ケアプランを作成している。		ホーム独自で作成したメモリーブックを活用して、本人の生い立ちや趣味、暮らし方の希望、交友関係等を詳しく聞き取り、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	メモリーブック(自分史アルバム)を作成し、職員内で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、健康チェックを行っている。また、毎月カンファレンスを開き、利用者の状態変化の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・ケアマネージャー・職員間で話し合い、必要に応じて専門のアドバイスを取り入れながら、介護計画を作成している。		毎月、モニタリングを行い、本人や家族の意向や要望を取り入れ、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)も活用して、日々の変化や気づきを反映した、利用者本位の介護計画を作成している。見直しは、3か月に1回行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテを用意し、生活の様子を記録しながら情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて支援している。			

自己	外部	項 目	自己評価	東	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内をドライブしたり、地域の行事に参加、または見学することで支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を取り入れたかかりつけ医による往診や受診が、定期的に行われるよう支援している。		本人や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。夜間等緊急時には、母体医院の協力体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に変化があった場合は、必ず看護師に報告し、指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中や退院後の療養については、医療機関と相談している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、病院を希望されている家族がほとんどなので、実施できていない。		重度化や終末期のあり方については、現状ではホームでの対応が厳しくなれば、本人や家族の意向を踏まえて、病院への移転を行っている。まだ、ホームとしての方針が確立できていない。	利用者が高齢化しており、重度化や終末期のあり方について指針を作成して本人や家族に説明し、関係者全員が共有して、支援に取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	専門のかたによる講習を受けてはいるが、全職員が実践力を身に付けているとはいえない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、職員全員が救助要請の連絡先を周知している。また、役場・地域消防団の協力を得ている。		消防署の協力を得て、利用者と共に年に2回、防災避難訓練を行っている。また、役場や地域消防団の協力が得られるよう、努めている。	特に夜間の災害では、職員だけの対応では限界があるので、地元消防団や地域住民の協力が得られるよう、協力体制を築いてほしい。

自己	外部	項 目	自己評価	東	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた対応をし、職員間で共有している。		一人ひとりの人格を尊重し、入浴時や排せつ時の誘導、居室を出はいるときの声かけ等に配慮し、プライバシーを損ねることことがないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望や希望を聞き入れ、対話や見守りで対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、できること、やりたいことを見極め、支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容は家族と一緒に外出したり、出張サービス等を利用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と同じテーブルにつき、会話を楽しみながら、食事のサポートをしている。後片付けなども、時々、職員と一緒にやっている。		新鮮な季節の食材を取り入れ、利用者の好みに配慮したメニューとなっている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで、会話をしながら楽しく食事をしている。後片づけを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じた食事形態にし、水分がなかなか摂れない方には、ゼリーなどで対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、就寝時には、義歯を消毒液につけている。			

自己	外部	項 目	自己評価	東	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄量の多い方は、頻回にトイレ誘導を行い、間隔が遠い方には、状況を見て声掛けを行っている。		排せつチェック表を活用して、一人ひとりの排せつパターンを把握して、できるだけトイレで排せつできるよう、自立に向けて支援している。また、日中はオムツを使用せず、過ごせるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や便秘薬を利用して、排便コントロールを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者の体調や希望に沿った支援に努めている。		入浴は週3回となっているが、希望があれば、いつでも入浴が楽しめるよう支援している。夜間入浴の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるように、日中に仮眠や外気浴等を行い、睡眠のリズムを整えている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示のもと、職員全員が服薬の支援を行い、状態の変化を確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月2回の生け花教室やドライブ（外出）などを通して、気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や地域の文化祭などに出かけ、家族や地域の人々と交流している。		車いす使用の利用者も、車いす対応の車両で、週に1回は家族の協力を得て、買い物や公園に出かけている。天気の良い日には、中庭を散歩する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	東	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持っている方もいるが、必要な物は家族に連絡し、持ってきていただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話等ができるように、家族に了解してもらっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に活けて頂いた季節の花を、玄関や食堂に飾ったり、中庭からの太陽の光を取り入れ、明るく過ごしやすい空間を作っている。		共用の生活空間は、採光、換気、テレビの音量、温度・湿度等に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。玄関には、利用者が生けた生け花が飾られ、季節感をとり入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に応じて居室で過ごされたり、共用空間では、好きな場所に座って頂いている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具類を持ち込んでもらったり、家族や自分の写真を飾り、居心地の良い空間づくりに努めている。		家族と相談しながら、本人が希望する使い慣れた家具や日用品、仏壇、写真等を持ち込まれ、利用者が居心地よく、安心して生活ができるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かりやすく明示したり、食堂のテーブルに名札を置いている。廊下には、安全対策の為、手すりを設置している。			